

静かな地震対応

神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」教授 金芳 外城雄

神戸市東灘区青木で不発弾が発見されたのは、平成19年2月6日のことです。民間不動産会社のマンション建設予定地内の解体作業現場の土中（深さ2.5メートル）に発見され、不発弾は米国製500ポンド（250キロ）爆弾1個です。

神戸市ではただちに当日16:30に神戸市事故警戒本部を設置し、自衛隊をはじめ関係機関との対策に走りました。自衛隊がこれまで手がけた不発弾処理に失敗例はないとのことですが、不測の事故対応には万全を期さなければなりません。周辺住民への周知徹底、要援護者への個別周知と避難支援、通過交通の規制など、することは山ほどあります。最終的には約一ヶ月後の3月4日（日）が不発弾処理の日に決まりました。それは、迫りくる巨大地震への事前対応といっても過言ではありません。まさしく「静かな地震対応」と表現していいものですが、結果的には無事に処理も終了し、午後1時45分（立入制限から計約6時間後）に神戸市長が安全化宣言を行いました。この間の関係者や地域住民の対応や心労は大変なものであったと思います。

私の加入しているNPO「神戸の絆2005」も当日の避難所支援や本部での電話相談などに16名の会員が従事することになりました。当日は災害対策基本法第63条に基づき、午前7時45分に立ち入り制限、退去命令が、現場周辺半径300メートル、約4,500世帯、1万人に出されました。一部国道の交通規制、阪神電車の規制も実施されました。

中でも、区域内の要援護者約500人の自宅には保健師などを派遣し、個別に事情を確認し、当日は地域の防災福祉コミュニティの皆さんが付き添って、近くの小中学校など5箇所の避難所に誘導されました。周知徹底は、東灘区の職員がローラ作戦で何回にもわけて当たっています。

当初の予測では最大で2,000人規模の避難所への避難を想定してかかっていますが、最終的には避難者数は205名で、要援護者対応は36件になりました。想定見込みの一割強でしたが、これも事前の周知徹底がなされたからだだと思います。当日は幸いにも天気がよく温暖な一日であったことも幸いしています。最終的にこの対応にあたった関係者は17機関、約1,500名にのびりましたが、静かな地震対応は見事にその役割を果たしました。震災を体験した神戸ならではの対応であったと思います。終わった後のコーヒーは格別の味覚でした。

（2007年度から会報は発行を停止しました。）